

2025 年 5 月 30 日

三岐鉄道×秩父鉄道 電気機関車コラボ塗装を実施します！

三岐鉄道株式会社（本社：三重県四日市市 取締役社長 渡邊一陽）と秩父鉄道株式会社（本社：埼玉県熊谷市 代表取締役社長 牧野英伸）では、この度両社で貨物輸送に使用している電気機関車の塗装を入れ替え運行します。これは、両社ともに国内では数少ない旅客・貨物輸送の両方を行う私鉄として、鉄道貨物輸送がCO2削減や一度に大量の貨物を輸送できるなど、環境負荷低減やSDGsに貢献する輸送モードであることを、広く一般の方々にも認知いただきご理解をいただけるよう企画を実施します。

1. 運行期間

三岐鉄道：2025（令和7）年7月～当面

秩父鉄道：2025（令和7）年6月中旬～当面

※車両検査等により運休する場合があります。

2. 運行区間

三岐鉄道：三岐線 富田～東藤原

秩父鉄道：秩父本線 羽生～三峰口、三ヶ尻線 武川～三ヶ尻

3. 対象車両

三岐鉄道：ED454 号機

秩父鉄道：EL303 号機

4. その他

他の機関車と共通で運用するため、運用に関するご案内はできませんのであらかじめご了承ください



三岐鉄道ED454



秩父鉄道EL303号

◆三岐鉄道(株)の貨物輸送について

三岐鉄道㈱三岐線では、東藤原駅にある太平洋セメント㈱藤原工場から、粉体セメントを四日市港まで貨車輸送を行い、貨物船により各地へ出荷しています。また、炭酸カルシウムを愛知県の碧南火力発電所まで貨車輸送し、環境改善に使用されます。さらに発電所で発生する石炭灰を同じ貨車に積み、同じ経路で藤原工場まで輸送し、セメント改良剤として使用されます。貨物列車 1 編成でおよそ 500～640 t の輸送力があります。



◆秩父鉄道㈱の貨物輸送について

埼玉県北部を東西に横断し、熊谷を起点に東は羽生（はにゅう）、西は埼玉県の代表的な観光地である長瀬（ながとろ）、秩父を通り、三峰口（みつみねぐち）まで、田園地帯や荒川、秩父の山々など総延長 70km 超の広大な自然の中を走る鉄道です。

秩父鉄道で貨物輸送する石灰石は、叶山（かのうやま）鉱山（群馬県）と三輪（みのわ）鉱山（埼玉県秩父市）で採掘されます。叶山鉱山で採掘された石灰石は、ベルトコンベアで秩父太平洋セメント秩父工場へ運搬され、武州原谷（ぶしゅうはらや）駅で貨車に積み替え、太平洋セメント熊谷工場（三ヶ尻（みかじり）駅）へ電気機関車で輸送しています。三輪鉱山で採掘された石灰石は、坑外にベルトコンベアにて運搬され、貨車に積み替え、影森駅を経由して、太平洋セメント熊谷工場（三ヶ尻駅）へ電気機関車で輸送しています。貨物列車 1 編成でおよそ 700t の輸送力があります。

[illegible]

以上